

令和7年度 教育計画						学校番号17	
四国中央市立北小学校							
校長名	友安 敏博	学級数	8 (2)	児童 生徒数	98	教職員数	13

令和7年度 四国中央市立北小学校グランドデザイン

学校の教育目標
 進んで学び、心豊かで、たくましく生きる北小の子どもを育てる



めざす学校像

- みんななかよし楽しい学校
- 心と体を育てる温かい学校
- 保護者・地域に信頼される学校

めざす教師像

- 人間性豊かで子どもと共に育つ教師
- 自ら学び、信頼される教師
- 組織人としての自覚を持つ教師

家庭と共に、地域と共に育む

めざす児童像

思いやりのある子 すじ道を立てて考える子 強い体力のある子

心づくり

- あいさつ・返事・はきもの整頓・立腰の励行
- 人権・同和教育の推進
- 「特別の教科 道徳」の充実
- 多様な仲間づくりの推進

学びづくり

- 確かな学力の定着・向上
- NIEを中心とした読解力等を育成するための学習指導
- 自主的・主体的に学習できる環境の整備

体づくり

- 健康な生活に必要な態度や習慣の育成
- 体づくり・体育科指導充実
- 自らの安全や命を守る態度の育成

- 規律ある生活態度の育成
- 認め合い感謝する心の醸成
- いじめ、不登校0

- 県平均を超える学力
- 読解力・表現力の向上
- 学習意欲・学習習慣の向上

- 健康な生活への意識の向上
- 新体力テストの数値向上
- 防災に関する意識の向上

これからの社会を生き抜く力の育成

地域と共にある学校づくり(コミュニティ・スクールの効果的活用)

<p>重点目標</p>	<p>1 豊かな心の育成(思いやりのある子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶、返事、履物の整頓、立腰を意識した規律ある生活態度が育つ環境づくり ○ 人権・同和教育を基盤に据えた生きる力の育成並びに「特別の教科 道徳」の充実 ○ 一人ひとりの良さを認め合い、励まし合える温かく多様な集団づくり ○ 親から子へ、地域へつながる思いを大事にした感謝とぬくもりある人間関係づくり <p>2 確かな学力の定着と向上(すじ道を立てて考える子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業のユニバーサルデザイン化」による「よく分かる・楽しい」授業の実践 ○ アナログとデジタルのベストミックスによる学習指導の一層の改善 ○ N I Eを中心とした読解力・表現力向上のための指導の工夫 ○ 自主学習の励行による学習意欲、学習習慣の向上と定着 <p>3 健やかな体の育成(強い体力のある子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 規則正しい生活習慣の定着（早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ運動） ○ めあてを持って取り組む体育の授業展開の工夫 ○ 「えひめ子どもスポーツ I T スタジアム」等を活用した、体づくりへの意欲付け ○ 自らの安全や命を守る防災教育の推進（学校運営協議会との連携） <p>年間2回の学校評価を行い、2部会によるP D C Aサイクルの見取り、改善を進めていく。</p>
<p>管理運営</p>	<p>1 人的管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域への愛情と情熱を持って、地域と連携協働する教師集団づくり ○ O J Tを軸とした、高め合い、認め合い、信頼し合える教師集団づくり ○ 教育公務員としての自覚と責任の追求（綱紀保持と服務規律の徹底） ○ 心身共に健康で生き生きと働くことができる「ワーク・エンゲイジメント（働きがい）」の高まる職場づくり ○ コミュニティ・スクールを効果的に活用した業務改善と働き方改革 <p>2 物的管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設・設備の管理徹底と定期安全点検による事故・けが未然防止 ○ 防災計画の見直しと、災害時を想定し安全を追求した環境整備 ○ 豊かな情操を育む室内外の教育環境整備及び校内美化活動 ○ 地域コミュニティの場としての学校施設の運用と学校農園等の利活用 <p>3 事務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校務分掌の適正分担と任務遂行の見取り及び支援体制の確立 ○ I C Tの効果的な活用による事務的処理の効率化及び適切な文書管理 ○ 諸会計・諸帳簿及び個人情報の適正な処理と管理の徹底
<p>本校教育の継承と展開</p>	<p>人権・同和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員一人ひとりが、部落差別の歴史と現実を正しく理解し認識するとともに、自己の生き方を見詰め、差別に強い憤りを持って、差別解消に臨む気持ちを確かなものにする。 ○ 教職員一人ひとりが、常に被差別の立場で物事を見る目を養い、差別の現実深く学ぶことで、人間のぬくもりを再認識し、自らを高め、差別解消に向けて尽力する。 ○ 全ての教育活動の中で一貫性を持って差別解消の芽を育てる。 ○ 生活の中の不合理や矛盾に気付く力を身に付けさせ、差別解消につながる意欲や態度を育てる。 ○ 児童一人ひとりの自尊感情を高め、人権感覚を磨き、差別に負けない、差別を許さない、差別をなくす仲間集団へと導く。 ○ 家庭や地域等の思いをくみ取り、連携・連帯した人権・同和教育の推進を図る。